

取扱設置説明書

- ご使用前に、この欄を必ずお読みになり、正しく安全にお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつも見られるところに保管してください。

- このたびは、フルトレーラケーブルをお買い上げいただきまして、ありがとうございました。
- ご使用前に正しく安全にお使いいただくため、この取扱設置説明書を必ずお読みください。そのあと大切に保管し、必要な時お読みください。

●本文中に使われる「図記号」の意味は次の通りです。

	してはいけない内容です		必ず行っていく内容です
	注意しなければならない内容です		
	警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性のあるもの	
	注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または物的損害に結びつく可能性のあるもの	

■使用上のご注意

⚠ 警告		⚠ 注意	
ケーブルを傷つけない、加工しない 	異物をいれない 金属類や燃えやすいものが入ると、火災の原因となります。 万一異物が入ったときは、車両の運行を中止し、車両のメインスイッチをOFFにして販売店にご連絡ください。	後方確認用としたときはモニター映像が鏡像（バックミラーと同様）であることを確認してください 設定を誤るとモニター映像の左右の確認を誤り、事故などの原因となることがあります。	車体に穴を開けて機器の取付けあるいはコードの配線を行ったときは、開けた穴のすき間やコードとのすき間をシリコン接着剤などで密封する 排気ガスや水などがすき間から室内に侵入して事故などの原因となることがあります。
重い物をのせたり、熱器具に近づけないこと。 ケーブルが破損します。 ケーブルに傷がついたまま使用すると火災・感電の原因となります。 電源ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったりすると火災・感電の原因となります。ケーブルが傷んだらすぐに販売店へご連絡ください。		コード類の結線修了後は、コード類をクランプや絶縁テープで固定する コード類が車体部分との接触により、すりきれてショートし、事故や火災の原因となることがあります。	車体に穴を開けてコード類を配線するときは、絶縁性グロメットを使用する 開口部とコード類との接触により、すりきれてショートし、事故や火災の原因となることがあります。
万が一異常が発生したら 車両のメインスイッチを切る 映像が出ない、煙、変な音、においがあるなど異常状態のまま使わないでください。 火災の原因となります。 このようなときはすぐに車両の運行を中止し、車両のメインスイッチをOFFにしてください。 煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。	指定以外のものと接続しない 指定以外のモニター、パワーアダプター等との組み合わせは故障の原因となります。	必ず付属の部品を指定通り使用する 指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品を傷めたり、しっかりと固定できずに外れたりして、事故や故障などの原因となることがあります。	正規の接続をする 誤った接続をすると、火災や事故の原因となることがあります。

■取付上のご注意

⚠ 警告		⚠ 注意	
配線作業中は、バッテリーのマイナス側ケーブルを外す マイナス側ケーブルを外すことなく作業をすると、ショート事故による感電や、怪我の原因となります。	コード類は、取付説明の指示に従い、運転操作の妨げとならないよう、まとめておく ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となります。	車体のネジ部分、シートレールなどの可動部に配線をはさみ込まない 断線やショートにより、事故や感電、火災の原因となることがあります。	モニターを天井などの不安定なところに取付けない 正しい設置を行わないと、モニターが落下して事故や怪我などの原因となることがあります。
車体に穴を開けて取付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認の上、これらと干渉や接触することがないように注意する パイプ類などの破損により、火災や故障などの原因となります。	電源リード線の被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対に止める リード線の電流容量をオーバーし、火災や感電の原因となります。	カメラを取付ける場合は、車幅からはみ出さない場所、また、車の前後からはみ出さない場所に取付ける 歩行者などに接触して事故の原因となることがあります。	コード類及びグロメットには塗装を行わない コード類の被覆及びグロメットが腐食し、事故や感電、火災や浸水の原因となることがあります。
接続コード類の配線は高熱部や回転部を避けて行う コード類の被覆が溶けたり、断線したりしてショートし、事故や火災の原因となります。特にエンジンルーム内の配線には注意してください。	車体のボルトやナットを使用してアースをとるときは、ステアリングやシートレール、ブレーキ系統などの重要保安部分のビスは使用しない 事故や故障などの原因となります。	車体のビスを使用して取付けを行うときは、ネジがゆるまないように確実に締付ける ネジがゆるみ、事故や故障などの原因となることがあります。	

使用機種（別売）

バックカメラ	C4015R・・・1台
モニタ	CM7230R・・・2台
ケーブル	W5020R・・・1本
防水中継ケーブル	W5005RR・・・1本
モニタ天吊金具	K7210R・・・1台
モニタ据置取付キット	K7200R・・・1台
車種別アタッチメント	取付車両により選択ください

別途手配品

増設スイッチ・・・1台

使用工具類（次の道具を用意してください）

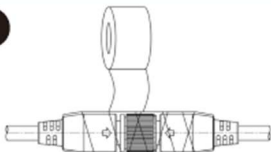
- ⊕ドライバー ●プライヤー ●ニッパー ●テスター
- 圧着ペンチ等

■構成部品

①ケーブル 1 (0.3m) 	②ケーブル 2 (16m) 	③ケーブル 3 (2m)
1 本	1 本	1 本
④キャップ 1 	⑤キャップ 3 	⑥リレー
1 個	1 個	1 個
⑦延長ハーネス (2m) 	⑧ブラケット 	⑨ボルトセット スクリュー (M5) 4個 ワッシャー (M5) 4個 スプリングワッシャー (M5) 4個 ナット (M5) 4個 スクリュー (M3) 8個 ワッシャー (M3) 8個 スプリングワッシャー (M3) 8個 ナット (M3) 8個
1 組	1 個	1 枚
⑩取扱設置説明書（本書） 1 枚		

取付時のお願い

- ケーブルは特殊ケーブルですので、絶対に切断及びねじりを与えないでください。また無理な曲げ（最小半径R25、最小曲げ角度90°）を与えないよう、十分注意してください。
- ケーブル・コネクタは、無理に引っ張らないでください。98N（10kg・f）以上の力でケーブルが断線したり、防水性が損なわれ、故障の原因となります。
- ケーブルの引渡しは、ノイズを受けやすいアンテナ等及びノイズ発生源のバックブザーや蛍光灯などの配線に近づけないでください。（50cm以上離して布設してください）
- ケーブルはカメラ側（レセプタル）とモニター側（プラグ）では異なります。表示通り取付けてください。
- 運転室内への引込みに当たっては、車両のワイヤーハーネス引き込み口等を利用してください。
- この他細部の設備要項は、車種、車体により異なりますので、それぞれの条件に応じて、付属品を活用願います。
- ケーブル保護のために金属のエッジ部や高温部、回転部の近くに布設する場合は、市販のコルゲートチューブやグロメット、ビニールテープなどを利用して保護してください。（ケーブル表面に傷がつきますと、カメラ内へ雨水が浸入する原因となります。）
- リングの緩み防止のため、ビニールテープを1往復巻いてください。

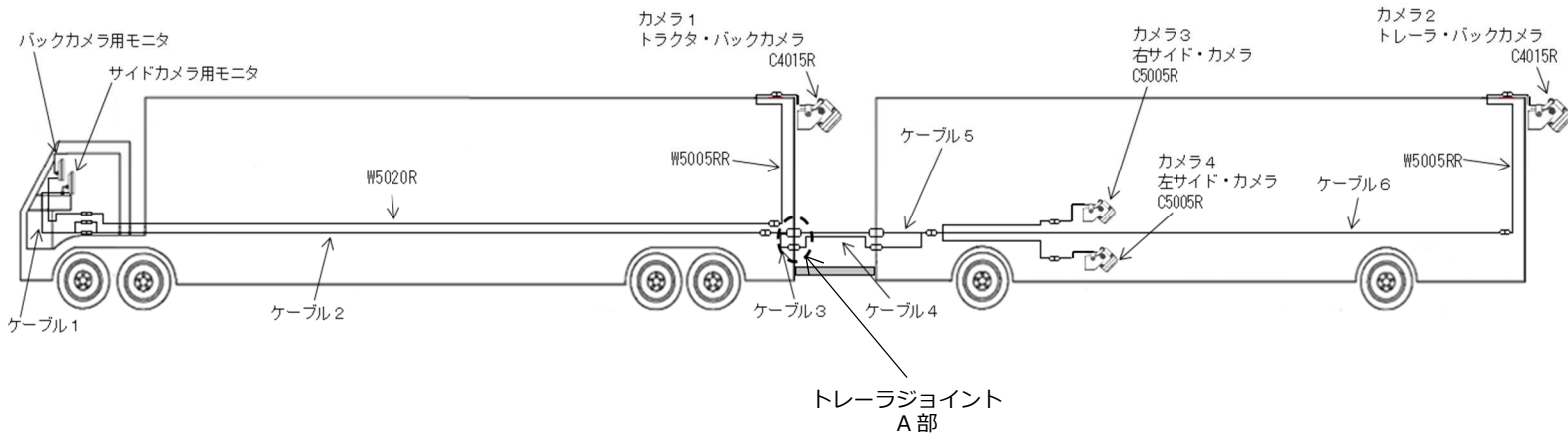


取付順序

A 全体の接続系統図

取付説明図

※本ケーブル（ケーブル1，2，3）は、トラクタ車側になります。 トレーラ（ドリー部を含む）車側のケーブルは、W5246RRとなります。



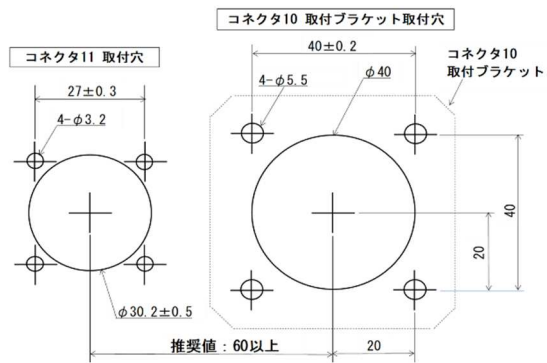
B 取付方法

- トラクタ車のトレラジョイント部（A部）にコネクタ5及び、コネクタ7の固定部に右図（推奨図取付穴）の形状に合わせて穴を開けます。
- コネクタ5及び、コネクタ7の固定は、同梱のスクリュ、ワッシャ、スプリングワッシャ、ナットにて固定して下さい。（右図参照）
 - コネクタ5・・・M3サイズ
 - コネクタ7取付ブラケット・・・M5サイズ
 - コネクタ7・・・M3サイズ
- カメラ及び、コネクタ5、コネクタ7の固定方法については、車両の形状に合わせ固定いただきますようお願い致します。
- ケーブル2、3及び、W5020R、W5005RR（防水中継ケーブル）は、トラクタ車に取付し、各ケーブルを接続します。
- トラクタ・バックカメラは、W5020RとW5005RR（防水中継ケーブル）を使用します。
- モニタの電源線及び、信号線、リレー回路の各配線は、下図を参照のうえ確実に結線願います。

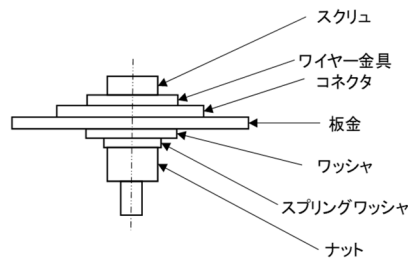
※注意事項

- ケーブルが走行時に車体や路面と接触する恐れがある場合は、コルゲートチューブ等でケーブルの保護処理を行ってください。
- 車両のBACK信号は、バック時にHIGH（BATT電圧）となる配線へ接続願います。

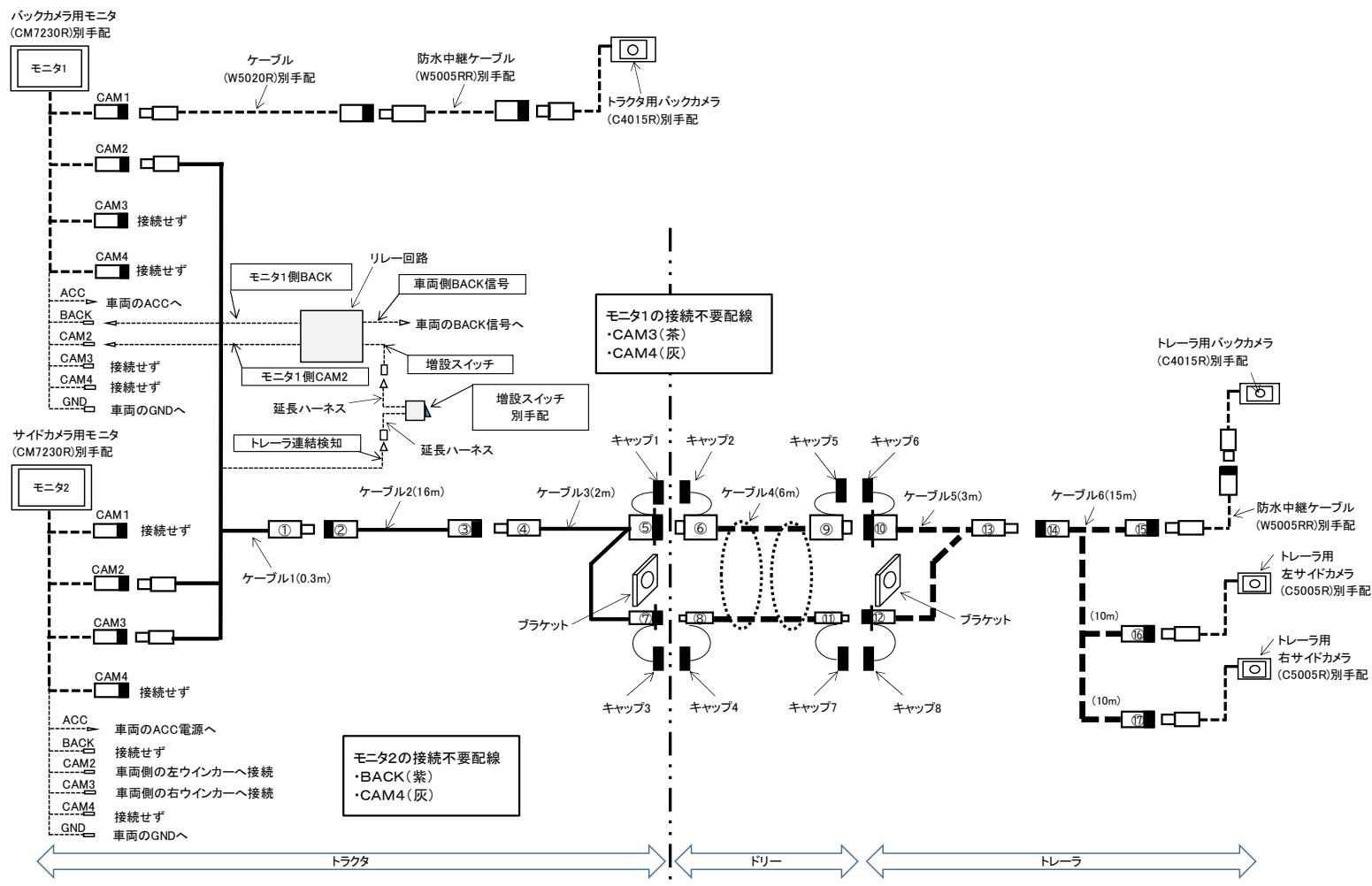
トラクタ側トレラジョイント部取付穴寸法



スクリュ、ナット組付け図



結線図



C 動作確認について

トラクタ車単体での動作確認はできませんので、必ずトレラ車（ドリー含む）と接続してから下記の手順にて、ご確認ください。

1) 取付完了後、サイドカメラ用モニタ設定を変更してください。

- 車両側キースイッチをACC-ONにして、モニタを作動状態にします。（インジケータが明るく点灯します）インジケータが暗く点灯している場合はスタンバイ状態のため、SB/ONボタンを押します。
【注意】コネクタ5～12が接続されていない場合は、トレラ側の画面表示は黒画面となります。
- サイドカメラ用モニタ（モニタ2）の「CAM-SELECT」ボタンを押して、画面の右上に「カメラ2」が表示されることを確認してください。
- 「DIM」ボタンと「BLC」ボタンを同時長押しして、トリガ設定メニューを開いてください。「▼」ボタンを押し、変更するトリガ番号を選択し、「DIM」ボタンでトリガ入力を下表（右側）の通りに変更してください。

トリガ設定メニュー画面

トリガ1入力	HIGH	トリガ1入力	HIGH
トリガ2入力	LOW	トリガ2入力	HIGH
トリガ3入力	LOW	トリガ3入力	HIGH
トリガ4入力	LOW	トリガ4入力	LOW

※バックカメラ用モニタは、設定変更不要です。

2) 動作確認

(1) サイドカメラ用モニタ（モニタ2）の動作確認

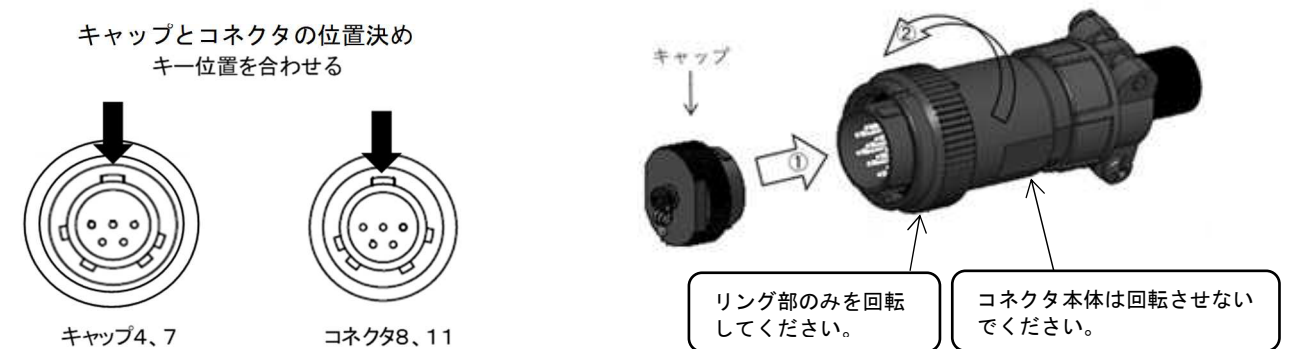
- ①トレラ車と連結状態（コネクタ5～12が接続されている）で、車両側キースイッチON時、モニタ2に左サイドカメラ映像が出ていること。
 - ②右ウインカー点灯時、モニタ2の映像が、右サイドカメラに切り替わること。
 - ③右ウインカーを戻した後、モニタ2の映像が左サイドカメラに切り替わること。
- ※ハザード点灯時は、左サイドカメラの映像がモニタ2に映ります。
※トレラを連結していない状態では、モニタ2は黒画面となります。

(2) バックカメラ用モニタ（モニタ1）の動作確認

- ①トレラ車を連結状態（コネクタ5～12が接続されている）で、車両側キースイッチON時、増設スイッチON時、モニタ1にトレラ側のバックカメラ映像が出ていること。
- ②増設スイッチをOFFに切り替えると、モニタ1に表示される映像がトラクタ側のバックカメラ映像に切り替わること。
- ③コネクタ5と6、またはコネクタ9と10を切り離れた時にモニタ1に表示される映像がトラクタ側のバックカメラ映像に切り替わること。

注意事項

- トレラジョイント部のコネクタ5と6及び、9と10を取外し時は、コネクタ本体を真っ直ぐに引いてください。コネクタ本体が斜めの状態で取り外すとコネクタ破損の原因となります。
- キャップの取り付けについて
故障の原因となりますので、トレラジョイント部のコネクタ5～12を接続しないない時は、必ず付属のキャップをコネクタに取り付けてください。
- キャップ4とキャップ7の取り付け方法（コネクタ8と11用キャップ）
 - ①キャップとコネクタの位置決め（キー）を合わせ、そのままコネクタにキャップを挿入します。
 - ②キャップを固定し、コネクタのリングを左に90度廻してください。（キャップやコネクタ本体を回転させると、コネクタ破損の原因となります）



- ③キャップを取り外す場合は、リングを右に90度回してしてください。